

## 「Q&A 産科編～企画担当者から」

この Q&A は、産婦人科血液学の専門家が、お母さんと赤ちゃんに影響する血液に係る疾患について、患者さんやそのご家族のご理解の助けとなることを目的として作成しております。また Q&A に記載されている内容は、本学会発表のガイドラインおよび産婦人科診療ガイドライン産科編 2011（日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修）、静脈血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン（肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症（静脈血栓塞栓症）予防ガイドライン作成委員会）を参考に作成されております。

本 Q&A に選ばれた項目についてご紹介いたします。

一般的な病気の概念には、産科診療で突然発生し、お母さんと赤ちゃん双方にとって危険な疾患の代表として、常位胎盤早期剥離、羊水塞栓症、産科 DIC を取り上げています。一般の方には馴染みの少ない疾患ですが、産科管理にとってはとても重大な疾患ですので、どんな病気なのかの質問に答えられる内容となっていると思います。妊娠前の注意点には、赤ちゃんとお母さんに影響を与える血液に係る病気をすでに抱えた女性に対して、妊娠に対する不安に答えたり、リスクを減らすためのアドバイスができる内容になっていると思います。さらに妊娠中の注意点は、妊娠後にわかった血液に係るリスクやその予防法について、分かりやすく説明されていると思います。

産科診療で問題となる血液に係る疾患は、一般の方々には馴染みのないものが多く、また次回妊娠へ影響することが多いのも特徴です。そのため、産科診療で遭遇する血液に係る疾患では、担当医から患者さんやそのご家族への説明や、ご質問に答える際には、参考となる記載があると有用と考えます。本 Q&A がこうした産科診療の情報提供に役立つこと、疾患を有している方々の疑問に少しでも答えることができたら、企画担当者として大変喜ばしいことです。

（板倉 敦夫）